

研究名：C型食道閉鎖症患児における長期予後予測因子の後方視的解析

1. 研究の目的

C型食道閉鎖症は、手術治療の進歩により急性期成績は向上しましたが、遠隔期には成長障害、吻合部狭窄、気管軟化症、経口摂取障害、胃食道逆流症など多様な問題を残しうることが知られています。急性期成績が安定した現在、遠隔期の予後を予測する因子を明らかにすることが重要と考えられます。

2. 研究の方法

- ① 研究対象：開院から2024年までの間に当院で根治術を施行したC型食道閉鎖症の患者様
- ② 研究方法：対象症例に対して、紙カルテ・電子カルテを用いて、診療情報（性別、胎児診断の有無、羊水過多の有無、分娩様式、在胎週数、出生体重、Apgar score、併存疾患の有無、心疾患の有無、Spitz分類、根治術時日齢、周術期合併症（縫合不全、吻合部狭窄、SSI）、術後在院日数、吻合部狭窄に対するバルーン拡張施行回数、遠隔期の症状（成長障害、狭窄症状、気管軟化症、経口摂取障害、噴門形成術を要する胃食道逆流症）などを後方視的に検索し、解析します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者様の情報（性別、母体情報、出生時の情報、手術に関する情報、術後経過に関する情報など）

4. 試料・情報の公表

学会や論文での発表に使用

5. 研究実施機関

群馬県立小児医療センター

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、この研究のためにご自分（あるいはご家族）の診療情報を使用して欲しくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の問い合わせ先に2027年3月31日までにご連絡ください。

研究に参加いただけない場合でも、将来にわたって不利益が生じることはありません。

ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

○照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

群馬県立小児医療センター 外科 小嶋重光（担当者氏名）

電話：0279-52-3551

○研究責任者：

群馬県立小児医療センター 外科 西明（責任者氏名）